

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.55 - 2013年7月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サレジオ会員の皆さん、 サレジオ・ミッションの友人の皆さん！

2013年の初めから、私はサレジオ会20管区を訪問しました。その多くはこの20年の間に設立された新しい拠点を持っています。拠点が設立されると、私たちはいつも宣教グループを立ち上げるようになってきました。

宣教の意識を高める最も良い方法はグループを通して働くことだと私は確信しています！ 多くの管区長、青少年司牧担当者、宣教促進担当者と分かち合ったビジョン、

夢は、世界のすべてのサレジオ会支部に宣教グループを立ち上げる、あるいは復活させることです！ 「子どものミッション」(小学校)から宣教ボランティア(青年)まで、さまざまなグループからたくさんの提案が上がっています！ 明らかに宣教グループは、若いサレジオ会員が宣教活性化のダイナミクスを学ぶ養成支部で効果的な役割を果たします。

宣教グループは何をするのでしょうか？ イタリアではscuola di mondialità(世界の学び舎)を中心に発展し、コンゴではCercle missionaire(宣教サークル)と呼ばれ、メキシコにはGrumis(宣教グループ)、日本にはドン・ボスコ・ボランティア・グループがあります。宣教地や宣教師の召命のために祈り、ウェブ上に宣教に関わる情報を提供し、掲示板、ソーシャル・ネットワーク、宣教に関するビデオ、宣教のための養成、宣教地の訪問などを通して、特に海外宣教missio ad gentesへの共同体(サレジオ会共同体、教育司牧共同体)の関心を保たせるのは、宣教グループです。しかし、最も大切なのは農村の地域社会、司祭のいない貧しい地区、小教区共同体から遠く離れた家庭の訪問などです。宣教グループは貴重な貢献ができます！ サレジオ会員はしばしば宣教グループに同行して「宣教」を発見しています！時には、若者たちが宣教グループに同行するサレジオ会員を回心させることがあります。どうぞ良い旅を！

Viklan Oemant

宣教顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

ヨーロッパへの宣教師求む

管区-国	必要な言語	環境、求められる資質
AUS-オーストリア	ドイツ語	ユースセンター、オラトリオ、小教区、移民のための活動、SYM(サレジオ青少年運動)
GBR-英国	英語	学校、霊性センター、移民のため若い会員を求む
IRL-アイルランド	英語	学校、若者のための霊性センター、若い会員を求む
IME-アルバニア、コソボ	アルバニア語、イタリア語	第一次福音宣教、少ない人員、特にサレジオ会修道士を求む
ICC-イタリア:移民	イタリア語、スペイン語、英語	イエスのみ心プロジェクト(ローマの移民)、プロジェクト・ジェノバ(エクアドル人)



コンゴ民主共和国管区長ジャン=クロード・ンゴイ神父へのインタビュー(フランス語、英語字幕あり)
vimeo: <http://vimeo.com/68783081>



再び学ぶために、前に学んだことを捨てること

時

に、さらに一步を踏み出し、サレジオ会員としてもう少し心を広げ、神が遣わされる場所へ行ってみることはできないかと問うことができるでしょう。そこでは、信仰者として、また社会に貢献できるように育成された専門家としてより良い人間になれるように、共に歩んでくれる人を待っている人々があります。私は10年間、この問いを真剣に考えてきました。とうとう、2010年の1月、総長パスクアーレ・チャーベス神父は私の願いを受け入れ、2010年の9月、私は第141回サレジオ会宣教派遣の約40名のサレジオ会員に加わりました。私たちはローマとトリノで新宣教師研修コースに参加しました。コースでは、異なる文化、言語、習慣の中で宣教師として生きることの意味について話し合い、識別を行いました。再び学ぶために、前に学んだことを捨てることが重要であり、必要です。もう一つ大切なことは、カルチャー・ショックを乗り越えることです。また、文化受容を、共に旅を歩むこと、私たちの生き方と教育活動をよりわかりやすく、福音宣教をより信頼できるものにするために共に働き暮らす人々と出会うこととしてとらえることも大切です。宣教師にとっての危険は、自己完結的に仕事をしてしまうこと、



その結果、孤立し、置かれた環境で無力に感じる、活動主義が高じ、なぜ、何のために働いているのかを見失い、最終的には自分の行うことの土台である神から離れてしまうことなどがあります。私はこの新たな任務に適応する際、このような問題を乗り越えるため、助言してくれる人に耳を傾け、この新たな異なる現実を理解するように努めました。そして自分が体験していること、ともに暮らす人々(若いサレジオ会員、信徒など)のために祈りました。人生におけるこの一步を踏み出そうと考えている皆さんには、惜しみなく、恐れなくて、と励ましたいと思います。よく働き、祈ることによって、他者に心を開き、自分の召命に熱意を持ち、聖人になるようにと呼ばれる主にすべてを捧げることによって、困難は乗り越えられます。マリアはこの旅を私たちと共に歩んでくださいます。私たちの手を取り、神が私たちに望まれ、私たちがその呼びかけに全面的に応えて歩むところへと導いてくださいます。

スペイン出身、ペルーの宣教師
ホセ・ヴァスケス・ガジェゴ修士

私たちの小教区が福音宣教にさらに開かれますように!

リ オデジャネイロのWYD世界青年の日大会(7月23日-28日)は「サレジオ会の青少年司牧」についての総長書簡をふりかえる良い機会になります。その書簡で総長は、次のように指摘しています。「私たちの使徒職はまだ十分に宣教的ではありません、すなわち、キリストを知らない人々への福音宣教、あるいは再福音宣教の必要性にあまり注意が払われていません。」

サレジオ会に委託された小教区について、パスクアーレ・チャーベス神父は真剣に検討すべきいくつかの側面に私たちの注目を促しました。その中に、次のものがあります:

- 一より宣教的な使徒職のスタイルを促進する。福音化と、教会から遠くにおいてキリストを知らない人々への福音宣教、また、特に若者と家庭のための継続的で漸進的な信仰教育の計画をもって。
- 一より宣教的・サレジオ的な司牧の方法論を促進する。人々をあるがままの姿で受けとめることのできる豊かな教育的感性を備え、心を開いて信仰を受け入れたい、キリスト者としての生き方の道を継続的、漸進的に歩みたいという望みを人々のうちに目覚めさせるもの。



サレジオ会の宣教の意向

南アジア地域

南アジア地域において宣教師の召命が増し加えられ、宣教師である若い会員たちが召命に堅忍できますように。

南アジア地域には平均して毎年130名の修練生がありますが、毎年総長によって海外への宣教師として派遣されるのは、平均して7名にすぎません。宣教精神を生き生きと保つためにいくつかの取り組みが進められています:いくつかの養成支部で宣教グループが再結成されました。この2年の間に、2つの宣教志願院が設立されました。1つはシラジュリ(インド北東部のグワハティ管区。北部の6管区合同)に、もう一つはチェンナイ-ペランブール(南部の5管区合同)に。何よりも、海外宣教師の召命のために、祈りのキャンペーンが続けられています。インド亜大陸では400名以上の宣教師たちがサレジオ会カリスマの成長のために働いてきました。今、宣教師たちを通して与えられた恵みに応える時が来たという総長の呼びかけに、南アジア地域は応えようとしています。

